

年 頭 所 感

新 春 ご 挨拶

大 井 利 夫

上都賀総合病院 名誉院長

診療情報管理士教育委員会 委員長

日本診療録管理学会 理事長

新年、明けましておめでとうございます。

2006年が、診療情報管理士および受講生の皆様にとり良い年でありますようお願い申し上げます。

昨年は、診療情報管理士の皆様に関係する出来事が幾つか続いた年でした。診療情報管理士の通信教育方法が単位制・ドリル方式に変更になりましたし、さらに、診療録管理学会認定による診療情報管理士指導者制度が発足し、18名の方が認定され、指導者としてご活躍いただいています。また厚生労働省ICD室との連携の下にWHOのICD事業への参画が次第に充実し、11月には日本病院会によるWHOのICD支援の協定が結ばれました。これにより、今後はWHOパートナーとして、ICD業務活動に協力することになります。その他、日本救急医学会・日本外傷学会に協力して外傷症例登録システム構築事業への参画や、厚生労働科学研究費によるICDに関連した研究事業にも着手しました。

その間、診療情報管理士の教育・認定事業は、多くの関係者の方々のご協力を得て順調に行われ、昨年は1,376名の方々に認定証を授与することが出来ました。診療情報管理士認定者は、診療録管理士を含めて、現在までに10,926名と1万名を超えています。これも、診療情報の管理に対する医療界および社会の期待が増大し、認識されてきた証と言えるかも知れません。4月から始まった個人情報保護法の全面施行、医療機能評価機構による審査やDPCの普及が追い風になっていると思います。大変喜ばしいことであるとともに、責任の重さを痛感しています。

本年は、6年ぶりの医療保険・介護保険の同時見直しの年でもあります。医療法の大改定も囁かれています。医療界はどのように変わのでしょうか。診療情報に携わる者にとっても大きな関心事であり、等閑視するわけにはいきません。しかし、どのような医療制度になっても、診療情報に求められる重要性には変わりがないはずです。

診療録管理学会では、昨年「診療情報管理士の誓い」と「日本診療録管理学会倫理綱領2005」を制定いたしました。診療情報管理士および診療情報管理士を目指している皆様は、ぜひご覧になり遵守するようにしていただきたいと思います。

モノの管理から医療の質を担保する情報の管理へと、診療情報管理士に求められる業務は今後ますます広がり、社会の期待も大きくなっていくであります。それだけに診療情報管理士の質も問われるようになるはずですが、本年も、診療情報管理士および受講生の皆さんの前に広がる大きな道と期待を見つめながら、診療情報の質的向上のために、皆で手を取りあい肩を組み合わせ着実に前進し続けていきたいと願っています。